NPO法人アジアの新しい風

第 81 号 2023 年 (秋)

この新聞はHP (http://www.npo-asia.org) でも読めます。 上の QR コードを読み取ってください 〒 154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

「創立二十周年」 記念イベント

いっそう重要になるアジ風の役割

理事長 加納 啓良



アジ風は今年7月に創立20周年を迎えました。この20年間に、アジ風が交流を続けているアジア4か国では経済発展が進み、高等教育も拡大しています。UNESCOの統計により2003年と2021年の大学進学率(短大を含む)を見ると、中国は15%から64%、ベトナムは10%から35%、インドネシアは

16%から36%と大幅に向上しています。一方、日本は51%から65%、タイも41%から44%と微増にとどまりました。いずれにせよ、日本との格差は縮んでいます。

また同じ時期の海外への留学生数は、中国が 28.8 万人から 109 万人、ベトナムが 1.5 万人から 13.3 万人、タイが 2.6 万人 から 3.2 万人、インドネシアが 3.8 万人から 5.6 万人と大きく 増えました。因みに日本は 6.2 万人から 3.3 万人に激減です。

日本の外国人留学生数も 2003 年の 8.7 万人から 2020 年には 22.3 万人に増えています。文科省の統計で 2022 年の国籍別を見ると、留学生総数 23.1 万人のうち中国が 10.4 万人で最多、次いでベトナムが 3.7 万人、またタイは 3 千人弱、インドネシアは 6 千人弱となっています。アジアからの留学生は今後も増えるでしょう。アジ風の役割もいっそう重要になると思われます。

─ Iメイト交流を通し平和を希求するアジ風のこれから ─

7月9日「JICA 地球ひろば」にて、アジ風創立 20 周年記念イベントが開催されました。会場参加は 51 名(会員、招聘学生、シリワン先生、鷗友学園伊藤先生、生徒さん、架け橋留学生)、オンライン参加は 40 数名(会員、タサニー先生、交流校 I メイト学生)でした。

司会は正会員のチャン・トウ・チャンさんが担当。2月の新春交流会の朗読コンテストで上位入賞した学生3名によるプレゼンテーションが披露されました。タマサート大学のカーンシリー・ピテイパットさん、清華大学大学院の金佑真さん、パジャジャラン大学のアリサソフィアプラダニさんが心のこもった朗読と感想を発表し、感動の余韻が残る中、アジ風テーマソング作詞者の高橋雪子さんから平和への願いと想いが語られ、金井優佳さんが

テーマソングを熱唱されました。

続いて上高子副理事長から、アジ風 20 年の歩みが紹介され、その後「平和を希求するアジ風のこれから」と題するパネル討論が行われました。招聘学生 3 名、学生の I メイ



トの大石純さん、西尾のぞみさん、千歩和人さん、タサニー先生が参加。パネラー達は、交流を通してどのように相互理解が進んだかをユーモアを交えながら紹介してくれ、タサニー先生からは、 I メイト交流を通し日本語を学ぶ学生たちの成長などについて示唆に富むお話を頂きました。 会場やオンライン参加者からも質問が飛び、盛況のうちに閉会となりました。

(事務局長 西澤 逸実)

一 受賞者と共に、山中湖のグランピングに行きました 一

記念イベント終了後、受賞者3名とシリワン先生、会員9名、留学生2名の総計15名が貸し切りバスで、一路山中湖畔に向かいました。

グランピング会場は賛助会員・周文さん経営の施設で、私達アジ風が第一号の利用者。夕暮れと共にバーベキューを皆で楽しみました。カーンシリーさんとアリサさんは2人で息のあったリズミカルなダンスを披露し、

金さんはアカペラで透き通る美声の「雪の華」を独唱、3人の多 才ぶりに感嘆のひと時を持ち、その後は焚火を囲みながら、学生 達は将来の夢、希望、不安などを語り、会員は経 験や失敗談などを披露し、楽しい夜は静かに更け てゆきました。

翌日は快晴で、透明度の高い神秘的な天然記念 物の「忍野八海」を見学し、次ぎに訪れた富士山 五合目は、頂上を目指す登山者で溢れ、「一度登山

口に入ったら、頂上まで行かないと降りて来られません!」と厳 しく注意を受けたことも真夏の富士山の想い出となり、実り多い グランピングの2日間を終えました。 (理事 古海 正子)



直ぐに申し込んだグランピング

日頃は会の皆さんとじっくり話す機会が少ないので、案内があると直ぐに申し込んだ。



バーベキューを食べ、好きなアルコールに気持ちも開放的になり、しっかり語りあえた。翌日は快晴、グランピングの地から富士山が鮮やかに変化するのを楽しみ、山中湖のほとり迄爽やかな朝の空気を吸い込みながら散歩を楽しみ、その後忍野八海・富士山五合目を皆さんと一緒に楽しみな

がら歩き回った。富士山の御祭神は木花咲耶姫、夫の瓊瓊杵命に 疑われ、燃え盛る産屋の中で三人の命を産んだ。五合目から美し くも力強い富士山を真近に眺められ、とても良い日を過ごすこと が出来た。 (正会員 山田 稔)

奥が深い人生相談をしました

山中湖でグランピング!!オシャレな光景に目が飛び出そうでした。トーイさんとキンさんと一緒のテントに寝ることになり、3人で夜中までわいわい盛り上がっちゃいました。夜はみんなとバーベキューしながら交流しました。いろんな国の人の集まりな

だけであって、意見が違っていて、とても奥が深い 人生相談をしました。とても大切な経験だと思いま した。

翌日の忍野八海は綺麗なところで、富士山のグッ ズを買って、水も飲みました。もも味のアイスやお

餅も食べてみました。五合目では富士山を背景に写真を撮り、河口湖にも寄り、いろんな体験ができてとても素敵な旅行でした。

(アリサ ソフィア プラダニ Iメイトは千歩和人さん)

創立二十一年へ、 総会開催

異常な猛暑が続くなか、第21回総会が9月10日(日)午前 10 時から新宿区市谷の JICA 地球ひろばセミナールームにて、20 名の会場参加者に 77 名の書面参加を得て定足数を満たし、有効 に開催されました。総会開始前に加納理事長が、コロナ禍で変則 的な開催を余儀なくされた数年間の総会を振り返りつつ今回の総 会を迎えることについて挨拶をされました。

続いて総会参加者の互選で正会員の園田成和氏が議長に選出さ れ、議事に入りました。西澤逸実理事、伊藤莞爾理事から 2022



< 左から 園田議長、加納理事長、

逸実理事、伊藤 伊藤理事、西澤事務局長 > 莞爾理事から、

2023 年度の事業計画及び事業予算が示され、いずれも承認され ました。なお年度計画・予算には、2023年7月に開催されたア ジ風創立 20 周年記念イベントが含まれておりましたが、総会に てその内容、執行された事業費について、追認されました。事務 局からの審議資料の説明に対して、会場参加者からは「日本語教 師の派遣事業が休止されている事情は?」「アジ風奨学金の支給 を2名予定しているがこれまでは1名が通例ではなかったか?」 など熱心な質問が寄せられ、これに対して事務局からは、日本語 教師派遣が事実上困難であること、コロナ禍の影響で数年間アジ 風奨学金の支給対象者がなかったことや大変優秀な応募者が2名 あったことから例外的に2名支給とすることなどの回答がされる など、会員との双方向の議案審議がなされました。

このあと西澤逸実理事より、8月6日付け理事会で新たに監事 として清華大学コーディネーターの正会員三木京子氏が選任され たこと、これまで顧問としてご尽力いただいた谷口浩章氏が退任 されたことの報告がありました。

総会に続いてIメイト・オブ・ザ・イヤーの表彰式があり、 2022 年度は正会員樋口京一さんが選ばれました。京都にお住い の樋口さんは、 I メイトとの交流の他、2023 年 5 月の西日本交 流会(京都)ではガイド役も担当されるなど、Iメイト学生、留 学生との友情と信頼の確かな関係をはぐくむ努力を払われ、会員 の模範となる交流を続けて来られました。そのご努力に敬意を表 し、加納理事長より、オンラインで参加された樋口さんに表彰状 が授与されました。樋口さんからは、Zoom 画面を通して受賞の ご挨拶があり、会場からは盛大な拍手が送られました。午前11 時30分に総会及び表彰式が閉会となりました。

> 西澤 逸実) (事務局長

Iメイト・オブ・ザ・イヤーを紹介します 2022 年度

続いて西澤

樋口京一さんのアジ風活動への貢献の紹介

樋口さんは2016年の入会以来、アジ風の中心的活動である学 生とのメール交流を真摯に続け、Iメイトたちと親密な関係を築 いてこられた。加えて、関西各地で開催される西日本交流会でも、 開催の縁の下の力持ちとして大いに貢献していただいた。

西日本交流会は、日本各地の留学生たちに、より多くの交流機 会を提供するために行われている。2019年の大徳寺での座禅体 験の後はコロナで開催を控えていたが、ようやく今年、まんが ミュージアム訪問と琵琶湖疎水、南禅寺の散策を行うこととなっ た。実は、樋口さんは京都にお住まいで、全国各地から京都を訪 れる修学旅行生のため案内ガイドをボランティアで続けておられ

今回、西日 本交流会の京 都開催にあた り樋口さんに 助っ人をお願 いしたとこ ろ、お忙しい 中、快くお引 き受けいただ

いた。企画段



<樋口さんは後列左から3人目。右端が筆者>

階での魅力あるコースの検討に続き、現地リハーサルで所要時間 や道の歩きやすさの周到な確認を行うなど、ガイドとしての経験 を踏まえつつ貴重なご支援をいただいた。もちろん交流会当日も、 見どころを押さえた解説や、ちょっと見過ごしてしまうようなス ポットの紹介など、一味違う親切なガイドで楽しく実りある交流 会が実現できた。

樋口さんは「次世代の若者に京都を通じて日本を知ってもらい、 日本のファンになってもらいたい」とおっしゃっている。樋口さ んには今後ともアジ風の諸活動をご支援いただき、この願いをア ジ風と共に実現してまいりたい。

> (理事 武田 高)

今後は Zoom 交流で日本語シャワーを

2016年に入会して8年目で [メイト・オブ・ザ・イヤーに選



ばれまして、大変恐縮しています。私 より長くIメイト交流されている方が 多くいらっしゃる中での選出に驚きま した。ありがとうございました。

入会以来、清華大学、タマサート大 学、貿易大学の6名と [メイト交流を し、うち2人とは、昨秋から交流して います。2人の留学が実現しお会いで きるのを楽しみにしています。

交流の中で、タマサート大学 OG の サルター・サエリムさんとはコロナ -----<水路閣の説明をする筆者> 前でしたので日本留学中に京都を案

内したり、またアジ風のスピーチコンテストで優勝されたと聞い て大喜びしました。清華大学 OG の向蕾陶(コウ ライトウ)さん はコロナ感染の時期と重なったため、京都大学留学中止及び北京 でのスピーチコンテストに優勝した副賞の日本旅行も中止と不運 続きでしたが、持ち前の積極性で北京オリンピックのボランティ アに応募し、半年間も選手村に滞在(閉じ込められ)していろん な人と交流し貴重な経験をされたこともあり、Zoom やメールで のやり取りで少しは彼女を応援出来たのではと思っています。

3年間のコロナ感染症の大きな副産物である Zoom が、 I メイ ト交流に新たな交流ツールとして活用されるようになり、これか らメール以上の大きなツールになる可能性があります。 I メイト に、いい意味での日本語シャワーを直接浴びていただき、聞く・ 話す力の実践の場なると思います。これからも、アジ風の活動に は参加して、Iメイトオブザイヤーに恥じない活動をしてゆきた いと思います。

> 〔正会員 樋口 京一)

清華大学訪問団 報告記

7月14日、東京のJICA地球広場にて、来日された清華大学の陳先生、大学院・学部生15名とアジ風会員との対面交流が久しぶりに実現しました。最初に、清華大学を代表して鐘希君さんが挨拶され、Iメイト交流で日本語や日本理解が進み、大学院生になった今もIメイトとの交流が続いていると語ってくれました。質問コーナーでは、学生からアジ風創立の背景・理念、国際情勢等に関する質問があり、上高子理事、西澤逸実理事をはじめ、参加された会員が回答しました。また、会員からは日中友好関係促進策、学生同士の恋愛に関する質問があり、学生の皆さんが率直

な意見を述べてくれました。そして、小グループでの懇談では、来日の感想、将来の希望など、ざっくばらんに話をし、「街中がとても綺麗」、「日本酒が意外と



薄く感じた」などの感想が印象的でした。

(交流コーディネーター 三木 京子)

アジ風の皆さん



去る7月14日、全員ではないですが、文字通りに「久々」とアジ風の皆さんとお会いできて、本当に嬉しかったです。最近、AIが色んな分野で人間の代わりになっているようですが、しかし愛情だけは、当分の間、代行できないものと、今回のアジ風訪問を通じて、確認できました。それはこの三年、オンライン会議などで幾度も

皆さんとお会いして来ましたが、やはり対面式のそれとは大いに 違います。 どう違うのかと聞かれたら、それは「人間味」のあるなしです。 以前から、たった一つのフレーズでこんなにも詩的な雰囲気を作 り出せるものかと、この三文字に特別な魅力を覚えていましたが、 今回久々と皆さんに会い、改めてこの一言の情調を理解できました。 生きている人間にとって、「人間味」は欠かせない養分です。

ダラダラと回想しているうちに、400字を超過しました。

最後には、やはり感謝の気持ちを皆さんにお伝えしたい。暑い中、 私たちの訪問を受け入れて下さったこと、本当にありがとうございました。

(清華大学外国言語文学学部東亜言語文化学科 陳 朝輝)

事前の質問に回答するも

今回の交流では事前に学生の方からアジ風に対する質問が寄せ



られ、質問に回答する形で行われました。学生からの質問でアジ風の"アジ"は何の意味ですか?との質問がありました。確かに魚のアジと勘違いされる可能性がありますね。

私が指名され回答した(3)アジ風の活動と 国際情勢について、の項目の中に"アジ風の活

動は今の日中関係の影響を受けているのか"との質問がありました。日本のマスコミは、中国政府は国民の言論を監視しており、 反政府的な発言をすると身を拘束されると報道します。私もこの 報道を気兼ねし、Iメイトとのメール交換では当たり障りのない 話題で書きます。 Iメイトは半年もすると交流の興味を失い離れ て行く感がします。ただし、アジ風では政治、宗教、思想信条に 触れないことを基本としているので、アジ風の活動は日中関係の 影響は受けていないと思いますと説明しました。実際は影響を受 けているので、はがゆい思いの説明でした。

(正会員 伊藤 春雄)

アジ風との交流 - 日本文化への扉と将来への希望

東京の猛暑の日、アジ風のメンバーと初めて 対面するという興奮と、自分の日本語能力に対 する不安が交錯し、心臓がどきどきと高鳴りま した。初めての交流が始まると、メンバーたち の笑顔が私に深い印象を残しました。彼らの多 くは既に退職していますが、アジア諸国の友好 関係を促進する情熱は若者と変わりません。交



流の中で、上高子女士はアジアの学生が独自の魅力と力を持っていると信じており、これがアジ風を設立した理由の一つだと語りました。

西澤先生は将来、中日友好の中でどのような役割を果たしたいのかとお尋ねになりました。大学に入学して以来、この問いに悩み続けましたが、アジ風との出会いに答を見つけました。アジ風の活動で、個人の力だけでなく、教育の力を見ました。これは絶えず成長し、強化される力です。私は日本語教育の専門家として、より多くの中国の次世代が日本を理解し、日本文化や社会を学ぶ手助けをしたいと考えています。

(日本語学科3年 李 祉玥 Iメイトは川口祐子さん)

架け橋グループ 清華大大学院生の帰国前懇親会を開催

2022 年9月に来日し、東京工業大学での研究を続けていた院生が帰国するにあたり、8月5日にIメイト会員との懇親会を開催しました。16名(うち院生7名)が参加。朝、東京都庁に集合、45階から首都圏の広がりを展望し、その後歌舞伎町へ移動、ランチとおしゃべりを楽しみました。東工大での修士論文提出も終わり、「最初は緊張したけれど、今は日本を最高にエンジョイしてる」など、英語交じりながら留学の様々な感想を報告してくれました。とても和気あいあいの雰囲気で交流を楽しみました。

(交流コーディネーター 浮田 輝彦)

楽しい日本の想い出を持ち続けて架け橋に

厳しい猛暑の8月の土曜日、都庁周囲は閑散としていました。 案内図を頼りに集合場所へ行くと、まだ少数の日本人だけ。しば らく待っているとIメイト達が揃って現れました。昨秋、彼らが 来日後、初めて会った時も揃ってやってきましたが、キョロキョ ロと周りを見ながら不安げな顔でした。でも、今度は手慣れた様 子で賑やかです。展望台からは広々とした関東平野を眺め、お土 産品が並ぶショップで中国に持ち帰るお土産探しです。

その後歌舞伎町へ移動、レストランでランチです。Iメイトの 馬思宇君と並んで座り、修士論文や大学のこと、寮生活などをノートに漢字を書きながらおしゃべりを楽しみました。彼のゼミでは 英語が使用され、他の外国人留学生と話す機会はあったが、日本人学生とはなかったのが、残念だった、とのことです。中国人留学生達は10か月余りを一緒の寮で過ごし、料理を作ったり、長期の休みには旅行に行き、楽しい留学生活だったようです。



帰国後、彼らは専門が日本と関係がなければ、日本語は必要なくなります。それでも楽しく過ごした日本の思い出を持ち続け、日本と中国の"架け橋"になって下さることを願っています。

(正会員 浅山 久美子)

8月27日にオンラインで Iメイト勉強会を開催

パネルディスカッションでは会員と元 I メイト学生だった 4 人



の OG にも参加してもらい、 会員の経験談に加え、メール を受ける学生の立場からの経 験や提案などを聞きました。

グループワークでは SNS の 活用法について、メールと併 用しながら話すことに重点を

置いている人もいれば、メールを中心に SNS で補足している人など、様々な体験談を聞くことができました。交流をうまく続けるのに正解はありませんが、勉強会に参加して、何らかの気づきがあれば幸いです。

(Iメイト交流担当理事 奥山 寿子)

期待がふくらむIメイト交流の大きな魅力

今年6月にアジアの新しい風に入会させていただいたばかりで



すが、7月には早速に新入会歓迎ミーティングに招待していただき、8月には I メイト交流勉強会に参加させていただきました。日本語を教える知識も経験もないのに、アジアの大学生の役に立てるか不安な新入会員に対して、手厚いサポートを提供してくださるスタッフの方々に心から感謝申し上げます。

Iメイト交流勉強会では、経験豊富な日本人の方々と、長年交流を続けている元学生の方々の双方から、充実した交流を続けるために心がけや、具体的なメールの書き方やSNSの使い方等、貴重な知見を共有いただきました。実務的なアドバイスがありがたいのはもちろんですが、それ以上に、異なる文化的背景を持つ日本人とアジアの大学生が、日本語を通じて相互の社会や文化についての理解を深め、信頼関係が築かれるという、Iメイト交流の大きな魅力に触れることができ、不安より期待が大きくなりました。

(正会員 山崎 美佳代)

憧れの日本留学を実現 日本人から学んだ仕事や人生の考え

日越外交樹立 50 周年を記念して、アジ風の元 I メイト学生(OG) のチャン・トゥー・チャンさんがインタビューを受けました。

幼い頃から日本に憧れ、文部科学省の奨学生として来日したチャンさん。東日本大震災の直後に日本留学を敢行し、災害直後の被災地を訪れ、その後の日本政府の対応や復興を見てきました。日本で学業を修め、日本企業に就職した彼女は、若者の視点、現代のビジネスパーソンとしての意見など、高齢化しているアジ風に、いつも新しい風を送ってくれており、今やアジ風にはなくてはならない存在となっています。

(理事 奥山 寿子)

留学直前に東日本大震災が発生 「あきらめずに留学して良かった」



「高品質な商品」「経済発展とともに、伝統文化や価値観を大切にする国」。チャンさんが幼い頃から日本に対して抱いていた印象だ。ハノイ貿易大学では日本語を勉強しつつ、「アジアの新しい風」に参加。日本語学習者は日本人会員とペアを組む I メイトになり、主に電子メールのやり取りで日本語の練習と

して交流する、多文化共生を掲げる会で、チャンさんの I メイトは、 会の創設者の日本人だった。

2011年4月に日本の文部科学省の奨学生として東京外国語大学日本語教育センターに留学する直前の2011年3月、日本で東日本大震災が発生。日本留学をあきらめたくなかったチャンさんは、Iメイトに相談。「安心して日本へ来なさい」との心強い言葉に励まされて、来日を果たした。「あの時に留学をあきらめなくて、本当によかったと思っています。きっと今のような貴重な経験や仕事での成功もなかったでしょうから」。

当時、ハノイ貿易大学の日本語クラブは、学生たちに鶴を折って被災者のために祈るよう呼びかけていた。チャンさんは千羽以上の折り鶴が入った箱を託され、2011年6月に岩手県大槌町の小学校に寄贈した。「折り鶴を通して、ベトナム人のお見舞いと復興を願う気持ちを伝えたかったのです」。

その後、京都大学に入学したチャンさんは、京都で学ぶ留学生などによる「国際理解プログラム」(PICNIK) に参加。市内の小・中学校の授業にゲストとして参加し、食べ物、テトの行事、お祭り、気候など、ベトナムの基本的なことを紹介した。「日本の生徒たちがベトナムを知ることで、ポジティブな印象を持ってもらえる良い機会だと思います。実際に『ベトナムに行ってみたい』と言ってくれるなど、とても興味を示してくれました」。

日本で製薬会社に就職 仕事における公平な評価

大学卒業後は日本とベトナムの経済に貢献したいと考えたチャンさんは、ベトナム支社をもつ「アステラス製薬」に入社。現在、

経営戦略部の一員として、製薬の開発戦略の策定などに関わっている。「医学の専門ではありませんが、患者さんに薬が届くまでの過程に貢献できることは、とても有意義です」。2021年からは2年間の予定でシンガポール支社に駐在した。「会社



の使命を託されて海外駐在となることは、日本人にとっても大変 名誉なことです。自分が駐在員に選ばれて、日本人はとても公平 だと思いました。国籍を問わず、能力があれば、同じようにチャ ンスを与えてくれるからです」。

経済から文化までより活発な交流を期待

チャンさんは、ベトナムと日本の経済関係を非常に良好だと認識している。例えば、日本はベトナムに対して技術協力と資金協力を組み合わせた ODA 事業を多く行い、ベトナムは研修生や技能実習生から知識労働者まで、日本に幅広い労働資源を提供していることだ。

「経済面だけでなく、文化や社会においても関係性が広がっていけばと期待しています。日本の魅力を知り、勉強や仕事で来日するベトナム人が増え、また、ベトナムの良さを知り、旅行や仕事だけでなく、長期滞在のためにベトナムにやってくる日本人が増えていくのが望ましいと思っています」。「ベトナムは、日本をはじめとする海外の製薬会社との更なる連携が必要だと思います。そうすることで、ベトナムの人々にとって最新の医薬品が身近なものとなり、健康の増進を推進し、さまざまな病気の治療と克服ができるようになりますから」。

*編集部註:日越外交関係樹立50周年日本側実行委員会の「U40特別インタビュー企画」にチャンさんが登場しました。本人の承諾を得て、抜粋転記をしています。





4年ぶりのアジ風奨学生2人誕生

コロナ禍で留学が困難だったため、アジ風奨学金への応募があ りませんでしたが、今秋から日本の大学院に進学が決定した下記 の2人に、奨学金を授与することが決まりました。本来は年間1 名ですが、4年間のブランクがあったこと、2人とも優秀な学生 であることを考慮して、厳正な書類審査と Zoom 面談により、異 例の2名採用となりました。

1. 施 奕敏(シ エキビン)さん。清華大学卒業。 東京大学大学院(学際情報学府)修士課程進学。

2. Do Phung Anh(ド・フォン・アイン)さん。ハノイ貿易大学卒業。 神戸大学大学院(国際経済学)修士課程進学。

2人は、学業成績はもとより、 I メイト会員との交流が、「友情 と信頼の確かな関係を育む努力」を払われた結果であることを確 認できました。会員のみなさんにも、今後のご関心と暖かいサポー トをお願いいたします。また2人には、アジ風の活動に積極的に 参加してもらい、研究報告などにも期待しましょう。

(奨学金担当・副理事長 上 高子)

多文化共生社会の構築に 少しでも貢献できることを願って

過去2年間、アジ風の文化交流活動を通じて、貴重な経験を積



み重ねてきました。Iメイトの園田成和 さんとのメールを通じて、日本語のスキ ル向上と日本社会への理解を着実に深 めることが出来ました。コロナの影響に より、現場でアジ風のイベントに参加す る機会はまだありませんでしたが、オン ライン会議で、ベトナム、タイ、インド ネシアから参加した多くの仲間と出会 うことが出来ました。異なる文化を背景 に育った彼らも私と同じ様に日本文化 に情熱を持っていて、熱心に日本語を学

ぼうとしていることをひしひし感じました。これらの文化交流活 動は、日本文化を深く探求したいという私の好奇心を更に掻き立 ててくれ、4年間の日本語学習と共に、日本への留学の原動力と なりました。

今後2年間、大学院で東アジアの社会文化に深く関りを持ち、 異なる国々の人々が他国の文化を理解する際の焦点を探究し、相 互理解を妨げる要因を分析する研究に取り組みます。アジ風 20 周 年記念イベントでの I メイト 3 人の平和に関するスピーチは、平 和の時代に育った私にも深い感銘を与えてくれました。これから、 社会文化に関する研究や交流活動に取り組むことで、平和の尊さ を広く伝え、多文化共生社会の構築に少しでも貢献できることを | を沢山習得し、母国や他の国の経済的な発展に貢献していきたい 願っています。

> (学生会員 施 奕敏 シ エキビン)

勉強や研究に集中できる時間が増え 専門書籍の購入や学会への参加に貴重な支援

2021年11月から I メイト学生になりました。当時、私は日本 語が苦手で、日本人と話すのが怖い気持 ちでした。しかし、Iメイト交流に参加 して以来、Iメイトの林孝男さんや日本 人会員との交流活動のおかげで、日本語 を使ったり、話したり、日本語勉強の支 援を受けたりする機会を与えていただ き、特に学生コーディネーターになって からは、日本人会員とベトナムのIメイ ト学生との架け橋になる機会が増えま した。日本語の勉強だけではなく、日本



の文化、日本人の働き方について大変勉強になりました。私にとっ て、アジ風への参加は学生時代で最も重要なターニングポイント であると思っています。

私は文化の架け橋であり続けるだけでなく教育と経済の架け橋 としてさらに進んでいきたいと考え、懸命に頑張って神戸大学大 学院経済学研究科に合格することができました。私のような発展 途上国から日本への留学生にとって、アジ風奨学金は非常に貴重 な財政的な支援です。勉強や研究に集中できる時間が増え、専門 的な知識を向上させるために必要な専門書籍の購入や学会への参 加のための経済的支援も得ることができます。修士号取得後は、 得られる知識を活かして、高度な人材になって、日本企業のこと と考えています。

> (学生会員 ド・フォン・アイン)

会員紹介

河野 美希さん

河野さんはアジ風の [メイト交流コーディネーター(パジャジャ ラン大学担当) の鈴木一美さんのお嬢様です。お父様がアジ風の 活動の様子について楽しそうに話すのを聞いたり、留学生達に出 会って、熱心に日本語を学び、日本での生活に奮闘するIメイト 学生のために、自分にも何かできることはないかと思ったのが入 会の動機だったそうです。

聖心女子大学卒業後 2000 年に国際協力銀行(JBIC)に入られ たのは、世界の中で日本人として多文化共生の一助となりたかっ たからで、その時既に、20年後にアジアの新しい風に加わる運命 にあったのかもしれません。

2011年にはご主人と二人のお子様と共にシンガポールに渡ら れ、9年間その地に住むことになりました。再び勤めた国際協力 銀行で社会の大きな仕組みの中で働く体験を経て、東南アジアの 国々の熱心な日本語学習者に日本語教師として教える道に転身さ

れました。

そもそも日本語教育に興味を抱いたきっ かけは、「人を育てる」というソフト面の国 際協力の形を知り、魅力を感じたからで、 より支援する先の人が見えるような草の根 的な国際協力ができ、また子育てを通して 知り得た「人を育てる」仕事がしたいと思っ たからだそうです。



帰国後は世界のさまざまな国に住む人達に日本語教育を広める ため、オンライン日本語教室を開講、国内外の日本語学習者に教 えておられます。詳しくは https://i-teach-nihongo.amebaownd. com/ をご覧ください。素敵なホームページが見られます。

河野さんは「アジ風のいいところは世代を超えた人達が何のバ リアも感じることなく、親しくお付き合いできていることです。 インターネットを通じた交流がベースだからこそ、世代の違いは 関係ないのでしょうね。」といって励まして下さいました。

インタビュアー:園田 成和

|メイト便り



Iメイトって? Internet, 愛,(出)会いのアイ

海外では新学期の始まる季節となりました。今年架け橋グループでは7名の留学生が来日することになり、日本での留学生活を開始します。充実した日本での生活を満喫することを願っています。今回は島村美智さんと湯明俊さん、SNSを利用している稲村由佳里さんと程月雨杉さんの交流を紹介します。 (9月から架け橋グループ I メイト交流コーディネータ 小関 高志)

島村美智さんと湯明俊さんとの交流

(湯さんのメールは英語からの翻訳)



▮湯さん→島村さん 2021年9月8日

お久しぶりです!今週は最終試験に向けてのプレゼンテーションがあり、とても忙しかったです。でも週末はラボの仲間と旅行する予定です。この9月、東工大へ留学の予定でしたが、清華大学は日本への留学を安全面から許可しないと思います。半年のびるかもしれません。い

ずれにしても、島村さんと日本で会うのを楽しみにしています。

島村さん→湯さん

2022年10月8日

昨日は、架け橋の留学生たちに会うことができて、とても嬉しかったです。東京大学の散策は如何でしたか。携帯の翻訳機能を利用した会話は面白かったです。上野の美術館はどうでしたか? 湯さん→島村さん

昨日は島村さんにようやく会えて、とても楽しい時間を過ごせました。国立博物館は興味深く、良い時間を過ごしました。その



あと、メンバー皆と居酒屋で夕食を食べましたが、おいしかったです。機会があれば、清華大学で博士を取得した後、また日本に来たいです。 (今は学問の大きなプレッシャーを抱えて、清華大学に戻り博士を目指します)

島村さん→湯さん 2023年5月6日

今日、清華大学のニュースレターで、湯くんの

修士修得のニュースを読みました。おめでとうございます。とて も誇らしく思います。

湯さん→島村さん

2023年5月8日

おめでとうのメールを有難うございます。修士を取り、3年の博士コースを始めました。うまくいけば、2年後に博士を取得できるでしょう。

島村さん→湯さん

2023年8月4日

北京の洪水のニュースが伝えられていますが、大丈夫ですか。 ご家族、お友達も無事にお過ごしですか。今年の日本の夏は異常で、 九州や沖縄が豪雨の被害を受けています。

湯さん→島村さん

北京は激しい雨に襲われましたが、私は幸い故郷に帰っていた ので大丈夫でした。島村さんも気を付けてお過ごしください

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

23 年 11 月 アジ風と貿易大学・清華 大学の3団体合同交流会

23年11月 秋の I メイト交流会

24年1月または2月 新春交流会

24 年春 西日本交流会

稲村由佳里さんと程月雨杉さんとの交流

1年間の留学中の LINE でのやり取りをご紹介いたします。

日本にいる間は LINE と Wechat 両方を使用して連絡を取っていました。程さんのことは「なつき」ちゃんと呼んでいます。

稲村さん→程さん

2022年 10月 17日

※一緒に弦巻神社例大祭に参加した後の LINE



今日は来てくれてありがとうございました。皆で一緒に過ごせて嬉しかったです!本当にありがとう。また会おうね。写真とか動画があれば送ってね!アジ風の皆さんにも共有します。

程さん→稲村さん

今日はお招き本当にありがとうございました! (写真のやり取り)

稲村さん→程さん

写真上手!私いい笑顔だわ~

程さん→稲村さん

ありがとうございます!本当にいい笑顔ですね (^w^) 皆さんの 笑顔を見て写真を撮るのも楽しいです!

稲村さん→程さん

なつきちゃん、昨日の神輿の写真、私が写ってなくてもよいので、何枚か送ってもらえますか?神輿や神社や祭りの写真はありませんか?あれば送ってください、と友人からお願いがありました。よろしくお願いします。

程さん→稲村さん

はい!いいです!昨日メールでお送りしようとしましたが、写真ファイルが大きすぎてメールでは送信できませんでした。クラウド上の共有リンクからお送りしようとしています。

稲村さん→程さん

ありがとう!うれしい!

程さん→稲村さん

2022年 10月 19日

メッセージを送るのが遅くなって申し訳ありませんが、下記リンクは架け橋プロジェクト以外で撮影した写真です。例大祭の雰囲気に酔いしれて一度は写真を撮るのを忘れていましたが、写真を振り返ってみるとあまり多くは写っていませんでした。これらの写真が役に立つことを心から願っています。次はもっといい写真が撮れるように頑張ります!

稲村さん→程さん

ありがとう!写真とても上手です!

・・・編集後記・・・

今号はアジ風創立 20 周年記念号ということで、80 号に続いて 6 ページ建てでお送りします。

さて、今年は春先に行われたWBCで、3大会ぶりに日本が優勝。その後も大谷選手をはじめとする日本人大リーガーが大活躍、とどめは「エンジョイ ベースボール」を掲げた私の母校の慶応高校が107年ぶりで夏の甲子園で優勝しました。

長髪問題とか慶応の応援の節操のなさなど、試合とは関係ないところで話題を呼びましたが、私が感動したのは試合終了後のグランドで慶応の監督と主将がインタビューを受けている時に、仙台育英高校の須江監督が、ダッグアウト前で選手と共に拍手をしていたことです。普通はダッグアウトで後片付けなどをしていますよね。まさに仙台育英高校は Good Looser だと思います。

どちらかというとサッカーに流れていた子供達が、野球の面白さに気づいて戻ってくれればいいな、と思っています。 (伊藤 莞爾)